

平成30年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	川村 保

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。
 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	中国語・韓国語の履修者が、語学の授業としては適正な人数を超えている。 履修者が多いクラスで、シラバス通りに授業を進められないこともあった。
	理由	・時間割の編成が学生にとって履修しやすい時間帯に位置していた。 ・語学に関心のある学生が予想以上に多かった。
②	課題	【継続】 事前・事後の学習が不十分である。
	理由	・前回の授業評価と比べると、事前学習と事後学習についていくつかの科目では改善の兆しが見えてきたように感じられるが、依然として十分とは言えない状況である。
③	課題	【継続】 学習環境が十分に整備されていない。
	理由	・老朽化した設備・備品があり、授業の実施に支障が生じている。 ・アクティブラーニングに適した構造の教室が少ない。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	・来年度の中国語と韓国語については、2クラス体制で実施し、1クラス当たりの履修者数を減らすことを検討している。 ・時間割の編成は年度によって変わらざるをえないので、履修しやすい時間にある科目だからという理由で履修する学生がどのように履修する科目を選ぶかについては不確実性が残るが、いずれにしても2クラス体制にすることで課題は改善されるものと考えている。
②	・教員間でのノウハウの共有等については、引き続き取り組んでいく。 ・課題を課すことによって事前学習・事後学習が促されているようであるので、そのような手がかりもFDなどの場を使って教員間で共有していく。
③	・体育館のメンテナンスや各教室のホワイトボードの更新等については、引き続き基盤教育群としても事務局への働きかけを行う。 ・クラスの大きさとそれに応じた教室の割り振りについては、時間割編成の中で可能な限り調整を行う。 ・アクティブラーニングに適した教室を増やすことは現実的には難しいので、これも時間割編成の中で可能な限り対応する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・高校時代や大学入学後の学習の違いにより基礎知識が不十分な学生が混在している状況に対して、簡単な例題を与えてグループ学習を促したり、レジュメを工夫したりするなどして対応している。
- ・レジュメの一部を穴埋め形式にして、授業への集中を促している。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・教員会議などで、教育改善について話題として取り上げ、これらの事例についての情報共有を図る。
- ・その他にも、関連の科目の担当教員のミーティングやFDなどの場を通じて、教育方法改善についての情報共有を図る。